

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 23 号 〇●〇

平成 26 年 2 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全校で共有するため、随時発行しています。第 23 号では、平成 24・25 年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校「石神井東小学校・石神井東中学校 研究発表会」について紹介します。

◆授業公開と分科会

2月 14 日、石神井東小学校において、石神井東小学校・石神井東中学校の研究発表会が行われ、降りしきる雪の中、300 人以上が参加しました。

研究テーマは「自ら学び自ら考え、心身ともに健康で人間性が豊かな児童・生徒の育成 ～小中一貫・連携教育を通して～」です。



分科会のテーマに沿って小学校全学年の授業を公開し、6年生の外国語活動では、石神井東中学校の英語教員との協力授業を行いました(=写真⑤)。1年生の生活科の授業では、石神井東中学校2年生がリトルティーチャーとして活動しました。

授業公開のあと、以下の4分科会で、研究と実践の発表を行いました。

- 学力向上分科会・・・国語では、小中の指導の流れを学習指導要領をもとに話し合い、指導事項の焦点化を図った。算数・数学では、小中におけるコンパスの使い方の違い（小学校：円を描く 中学校：長さを測り取る）やTタイム（ペア学習）の設定などについて小中教員が協議し、相互に授業づくりの提案を行った。
- 体力向上分科会・・・体づくり運動における学習カードや掲示物を工夫したり、体力調査の結果から各自めあてをもたせたり、中学校の臨海学校での遠泳に備えて小学校から平泳ぎの指導を丁寧に行ったりするなどして体力向上に努めた。
- 豊かな人間性・社会性分科会・・・道徳の研究授業やクリーン運動を通して、小中教員が児童生徒の実態への理解を深め、それぞれの発達段階に応じた指導法の工夫や手だてを考えることができた。



- 安定した学校生活・・・中学校2・3年生が年に1回ずつ、リトルティーチャーとなって小学校1年生に算数ゲームや読み聞かせや鍵盤ハーモニカの指導などを行った(=写真⑥)。当日だけの交流に終わらないよう「あのねカード」などを使って事前・事後の交流も行った。

◆堀田教育指導課長の指導講評

小学校6年生と中学校1年生の間には、大きな段差があります。段差がクリアできず学校不適應になってしまいう子供が相当います。

平成24年度の問題行動調査によると、練馬区の不登校の子供の数は学年が進むにしたがって増えていきますが、小学校6年生から中学校1年生にかけては発生件数が一気に3倍近くに増えます。いじめについても、中学1年生の発生件数は小学校6年生のおよそ2倍に急増します。いじめの件数が一番多いのは中学校1年生で、小中9年間全体の発生件数のうちの約4分の1となっています。

また、25年度の学力調査研究報告書では、勉強が楽しいと答えた子供は小学生は60%だったのが、中学生になると29%と落ち込んでしまいます。学習面でも中1ギャップが大きな壁となっていることがわかります。

接続を深める手立てとしては、5つのポイントがあります。

①カリキュラムの接続・・・学習指導要領に目を通して授業を見合うことです。学習指導要領に授業の中身は書いてありません。授業を見合うことが大事です。

②指導方法の違い・・・小学生のときは発表が多いのに、中学生になると手が挙がらないということがあります。発達段階の違いを見極めて、手だてを考える必要があります。

③子供の実態を共有する・・・学年ごとの傾向というものがあります。C4thの共有フォルダなどを活用して、学習のカルテなどで全体の傾向を共有しましょう。

④学習内容の定着・・・小学校では復習の時間をよく設けていますが、中学校で復習の時間を取ることは難しい、ですから家庭学習が大切になります。小学校6年生ごろから、自主的な学習を意識しながら進めていくことが大切です。

⑤小中の教員交流・・・小中の教員が顔見知りになると、連携が進みやすくなります。批判からは何も生まれません。小中一貫教育ですから“しょっちゅう”行き来してもらいたいと思います。今日の公開授業でも、中学校の英語の先生が外国語活動の授業に関わっていました。児童の実態理解や円滑な接続につながるはずです。

小学校の子供は必ず中学校へ行きます。各分科会では、小中お互いの良さを認め合いながら、学力観・指導観を意識することで、たくさんの成果がありました。

来年度は、富士見台小学校も加えた3校で課題改善カリキュラムを充実させ、みんなでできることを無理なく続けていってほしいと思います。そして、研究の成果を子供に還すとともに、他の小中学校にも広げていくことを期待しています。



◆参加者アンケートから

- ・授業を見るだけではよくわからなかった小中のつながりが、研究発表を聞いてわかってきた。小中一貫教育の見えにくい部分がわかるような研修を今後も受けたい。
- ・小・中学校からの視点に基づいた提案が活かされて、授業の質が高められていることがわかった。リトルティーチャーは中学生の心を豊かに育むのに効果的だと思う。